



始良市立 山田小学校

児童数 75 人
学級数 8 クラス



《テーマ》「自分の思いや考えを生き生きと表現する児童の育成」

研究に当たって（テーマ設定の理由）	研究の実際
本校は小規模校であり、児童の人間関係が濃密である。したがって、学級内においては自由闊達な意見交換がなされるが、学級外では、意見を主張するのをためらったり、心ない言葉をかけたりする姿が見受けられる。そこで、全ての児童が他者を尊重し、生き生きと自分自身を表現する姿を期待し、本テーマを設定した。	8月22日 職員研修 10月5日 人権教育講演会：6年 11月6日 校内研修：人権同和教育研修 11月9日 人権教育総合推進地域事業研究公開 12月4日 人権教室：全学年 2月29日 家庭教育学級

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ 人権教室（12月4日）

「あっていい『ちがい』とわるい『ちがい』」をテーマに授業を展開した。児童がジェンダーについて考える良い機会となった。

□ 職員研修（8月22日）

職員が人権同和教育に関する授業を行う際に、大変参考となる研修内容であった（子どもの権利、同和問題等）。この研修で得られた知見を生かし、来年度の人権教室は、人権同和教育係ではない他の職員が授業を実施する予定。

□ 家庭教育学級（2月29日）

子どもの権利に関することや、子どもと向き合うポイント「わたしメッセージ」などについて、指導主事から講演していただいた。保護者が二次感情ではなく、一次感情で話をすると、子どもにその愛情が多く伝わるという話は保護者の共感呼んだ。



【人権教室：1～3年】



【家庭教育学級】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの姿、よかったこと、今後やってみたいこと）

- 教職員、児童、保護者のそれぞれを対象にした講演会等を実施した結果、学校、児童、保護者が同じベクトルで人権同和教育に向き合うことができ、三者が共通した概念を形成することができた（まずは自分を大切に、次に他者を大切に）。
- 職員が研修を重ね、研修内容を学級経営や子どもとの関わりの中で生かしたことにより、児童は他者を慮った発言をするようになり、人間関係の構築能力が向上したと思われる。
- 今後、この取組で得られた概念を、学校、児童、保護者の三者で具体化・具現化に努めていく。